

- 国名：ケニア共和国
- 事業名：一村一品サービス改善プロジェクト
- 協力期間：2011年から2014年
- 相手国機関名：産業化・企業開発省

1. プロジェクトの背景

ケニアは天然資源に乏しいため、社会経済発展の原動力として、民間セクターの競争力を強化することが課題となっています。産業、投資、正規雇用の機会は都市部に集中し、農村部では企業が成長するのが難しい環境にあります。そのため、地域資源を活用し、農村部に多く存在する中小零細企業を活性化することは、雇用促進と収入向上・貧困削減につながると期待されており、ケニアの民間セクター開発にとって重要な課題として位置づけられています。

ケニア政府は、農村地域の中小零細企業の競争力強化に向け、日本の大分県で始まった一村一品運動を通じた地域活性化の取り組みをヒントに、2008年からJICAの協力を得て一村一品（One Village One Product : OVOP）プログラムを実施してきました。

農業・畜産・水産省によると、ケニアの小規模農民の約70%が女性であり、小規模農業における労働力の80%は女性が担っているといわれています。しかし、男性農民に比べて、女性農民の普及サービスへのアクセスは低く、また農業収入は低い場合には5割程度に留まるなど、ジェンダー間で格差が存在しています。

2. プロジェクトの取り組み

本プロジェクトでは、OVOPプログラムの改善と拡大を図るため、産業化・企業開発省¹内に設置されたOVOP事務局の運営管理能力強化、県・コミュニティレベルでのOVOPプログラムの推進、関係機関との連携強化に関する活動を実施しています。このような活動を通して、中小零細企業の育成を図り、最終的には地域の「一品」を競争力のある「逸品」に育て、逸品そのものと、逸品を生み出すためのネットワークが、地域の持続的で自律的な発展の原動力になることを目指しています。

OVOP事務局の運営管理能力を強化する活動では、まず産業化・企業開発省の上層部にOVOPの理念を発信し、理

解の促進に取り組んできました。その結果、OVOPがケニア政府の産業政策の一つとして盛り込まれ、同省の予算計画にOVOPの特別予算が組み込まれました。また、一村一品運動が始まった日本の大分県や、国家プログラムに一村一品運動を取り入れているタイでの研修など、各種研修・セミナーを通して人材育成を支援してきました。

また、県・コミュニティレベルでのOVOPプログラムを推進するために、22県の対象地域で「県OVOP委員会」を設立しました。地域を良く知る行政官、地域の生産者グループ・生産者支援団体などを招待したワークショップを実施し、地域のネットワーク構築を支援しました。OVOP活動を支援する機関はケニアビジネス訓練研修所やケニア産業開発公社、民間金融機関など、2014年7月の時点で40機関に上ります。

このようなネットワークを活用し、各生産者グループの「経営の健全化」、「各製品の逸品化」に向け実践的な研修を実施しています。これまでに支援した生産者グループは約200グループで、その構成員の男女比は、男性が51.74%、女性が48.26%となっています。

OVOPプログラムにおいて、各生産者グループを対象にビジネス研修では帳簿付け、市場調査、アクションプランの作成などを行い、健全な経営における各活動の重要性を伝えています。ビジネス研修には、これまでに女性176人、男性188人が参加しました。市場調査の研修参加者は、「自分たちの商品に何が足りないのかが分かった」、「市場調査って難しいと思ったけど、やってみたらうまくできたし、楽しかった」、「商品が売れた」など、興奮冷めやらぬ様子で感想を述べてくれました。このように「気づき」や「成功のイメージ」を提供することが、行動変容を導く第一歩となります。



パッケージや値段の確認



¹ 2013年に産業省から産業化・企業開発省に変更。



ビジネス研修の様子

ビジネスマッチングフォーラムでは、金融機関、技術機関、スーパーマーケットなど将来のビジネスパートナーに対し、生産者グループの事業を紹介し、連携の可能性を個別に交渉する機会を提供しています。また、産品別研修では、乳製品、果物・野菜加工品、石鹸・ローションなど産品ごとに「逸品化」を図るために必要な技術を指導しています。



綺麗に梱包された商品を陳列する女性生産者

これらの研修をきっかけに、研修参加者は定期的な利益計算、市場開拓、パッケージ改善など何かしら新たな行動を起こしています。この結果、48のサンプルグループの平均では、売り上げが4.3%増加し、利益は32.8%増加しました。また、全グループに対する帳簿チェックの結果、年間の売り上げは合計で1億円に上ることが分かりました。また、こうしたOVOPプログラムによる支援を利用したグループへのOVOPサービス満足度調査では、81.7%の満足度が示されました。

3. ジェンダー視点での効果

ケニアの農村部では、女性の自主的な活動や、女性のグループ活動について、男性や夫からの理解を得るのは難しいことです。そのため、女性は、活動範囲が限られ、自分の自由になるお金を手にすることも簡単ではありません。このような慣習が、本プロジェクトのような活動に女性が参加する際の支障になる場合もあります。

しかし、本プロジェクトのように、現金収入の向上やビジネス活動の発展に直接的に貢献する活動は、参加することでお金という目に見える形での成果が得られます。女性が活動に参加し、現金収入が増えるにつれて、「男性からのプロジェクトについての評価が上がった」、「他のグループ活動なども含めて外に出やすくなった」などの声が上がっています。女性自身としては、「自由になる現金を手にすることが可能になった」、「ビジネスで得た収入を使ってビジネス・マネジメントの学校に通うようになった」、「以前より自信を持ってビジネス活動を行えるようになった」など、行動に変化がみられるようになり、喜びの声もあがっています。

女性の参加はプロジェクト全体にも良い効果をもたらしています。研修では、演習やロールプレイなどに積極的に参加し、他の参加者をリードする女性たちの姿も目立っています。実際のビジネス活動でも、全般的に女性中心のグループのほうが、帳簿付けをしっかり行い、継続してビジネス活動を行っているとの評判です。このように、女性の研修への参加は、ビジネスグループの経営指標の向上などに良い効果をもたらしていると考えられています。



女性生産者グループ